

質疑應答

問。現今結核患者ニ榮養亢進ヲ意味スルニ兼テ「ヒスチオチーレン」系統ニ刺戟作用ヲ加味シテ「コレステリン」乃至含有食ヲ推奨シテ居ル反面、同ジ意味デ「レチ、ン」注射(三共扱 Helbin ノ如キ)乃至内服處方ニ應用セラレテ居ルノヲ見マスガ、斯カル拮抗性物質ヲ結核患者ニ應用スル場合何レヲ主トスルガ合理的デセウカ學理的御説明ヲ願ヒマス。(香川縣 M生)

答。簡單ニオ答ガ出來ヌ難澁ナ御質問デスガ、御同様ノ疑問ヲ抱イテ居ラレル方々ハ可成リニ多イ事デアラウト思ヒマスカラ紙面ノ許ス範圍デ愚見ヲ御參考マデニ述ベテ見タイト存ジマス。

サテ、「ヒヨレステリン」ト「レチ、ン」ナル二ツノ物質ハ貴問ノ通り諸種ノ生物學的機能或ハ血清學的反應上ニ拮抗的ノ作用ヲ現ス場合が多い、甲ハ催進的ニ作用スル場合ニ乙ハ抑制的ニ作用スルト云ツタ様デアルガ、必ズシモ總ベテノ事象ニ當テ甲乙二物質ノ作用ガ相殺的デアル拮抗性デアルトハ斷言出來ナイノデ、現今ニ在ツテモ尙ホ「ヒヨレステリン」

質疑應答

「レチ、ン」ナルモノ、生物學上ノ作用ヤ治療學的效果ニ就イテハ未ダ確然ト闡明セラレテ居ナイモノデ、學究者ノ注目スル甚ダ面白イ「テーマ」トシテ研究ニ没頭シツツアル時代デアル。サレバ「ヒヨレステリン」ガ結核ニ有效デアルカ「レチ、ン」ガ果シテ有利デアルカ等ノ問題ニ就イテモ一概ニ斷定的ニ肯定モ否定モ出來ナイ。元來結核患者ノ血清内ニハ「ヒヨレステリン」量ガ總ジテ増量シテ居ルモノデアルガ、更ニ此ノ上ニ「ヒヨレステリン」ヲ人爲的ニ移入スルモノトスレバ屋上屋ヲ架スルヤウナ手段デ、常識的ノ判斷ヲ加味スルモ治療的ニ意義ガナイヤウニ思ハレル、寧ろ病的ニ血清内ニ「ヒヨレステリン」ノ増量スル事ガ病因ヲ成ス一ツノ要約デアリ得ルカモ知レナイトスレバ「ヒヨレステリン」量ノ減少ヲ計ル事ガ當ヲ得タモノデナイカトモ推測セラレルガ、結核病ノ成因ガ單ニ血中「ヒヨレステリン」量ノ増減云々ノ如キ單純ニ要約計リデ支配セラレテ居ナイカラ斯クノ如キ臆測ヲ基調トシタ治療法ヲ行ツテモ著シイ影響ヲ期待スル事ノ出來ナイガ明白デアル。然シ乍ラ「ヒヨレステリン」ノ如キ物質ヲ一種ノ膠狀體デアルト見レバ「ヒヨレステリン」ニ固有ノ作用以外ニ一般膠質ニ通有シテ居ル性質ヲ發揮スル譯デアル。Weichart, Luthien

氏等ノ夙ニ唱ヘル所謂實質機能催進デアリ或ハ網狀織内被細胞機能亢進或ハ貴問ニ謂ハレル組織細胞機能増進トナツテ現ハレ間接ニ結核治療上ニ補助的ニ作用スル場合モ在リ得ナイトモ限ラレナイガ、「ヒヨレステリン」ヲ經口のニ攝ツタ場合ニハ斯ナ作用ハ殆ド現レナイカラ從ツテ先ヅ無效デアルト斷言シテ憚ラナイ。勿論貴問ニアル「ヒヨレステリン」含有食ノ内用トスレバ多クノ場合ニ「ヒヨレステリン」以外ニ貴重ナ榮養素ガ含有セラレテ居ルカラ治療的ニ效果ノアルモノハ「ヒヨレステリン」デナクテ、爾他ノ混在物質（「リポイド」蛋白體ノ如キ）デアルカモ知レナイ。「レチチン」ノ如キ「リポイド」ヲ非特殊の刺激療法トシテ使用スルハ從來行ハレテ居ル事デ結核ニ對シテモ相當有效デアルト唱ヘテ居ル學者モアルガ自分ハ純粹ナ「レチ、ン」製劑ノ注射ガ結核ニ對シテ著シイ治療的效果ノアルモノデハナクテ組成ノ複雑ナ「リポイド」蛋白體液内ノアル成分ガ相倚ツテ非特殊の刺激療法ノ實績ヲ收ムルモノデアルト信ジテ居ル。要スルニ拮抗物質デアル「ヒヨレステリン」「レチ、ン」ノ如キモノヲ同一疾患ニ使用スルモ何レモ根據ノ極メテ薄弱ナモノデ定論的ノ説明ナドヲ加ヘラル可キモノデナイ。加之、「ヒヨレステリン」「レチ、ン」ト稱スルモ純製品ヲ使

用シテ居ルモノデハナイカラ、治療的效果ヲ認メタ場合ニモソレガ果シテ「ヒヨレステリン」ヤーレチ、ンノ主作用デアツタカ、莢雜物質ノ爲デアツタカモ分明シナイ理デアル。極端ニ謂ヘバ結核治療難ニ乗ジテ兎モ角モ變ツタ新製劑ニ依ツテ利得ヲ貪ラントスルイカサマ製藥業者ノ手段ナル場合ガナイデモナカラウ。藥理學的ニハ「アンタゴニスト」デアアル「アトロピン」ト「アドレナリン」ノ如キモノヲ喘息ノ治療劑ニ使用スルガ斯カル意味デ「レチ、ン」ト「ヒヨレステリン」ガ結核ニ作用スルモノトスレバ敢テ理論上ニ疑議ハナイガ、此ノ方面ニ關シテモ皆目實驗的ニ證明ヲ缺ゲル事デアル。若シ「ヒヨレステリン」ト「レチ、ン」製劑ノ如キモノガ實際ニ治療上ニ使用セラレテ居ルモノトシテ其ノ何レヲ選ブ可キカヲ問ハル、ナラバ、自分ハ「レチ、ン」ノ如キモノヲ主トスル「リポイド」製劑ノ方が優レタルモノデ至當デハナイカト思フノデアル。（東京市療養所 鴻上慶治郎記）